

あおぞらのいす

—ひきこもり不登校支援の会/相談会—

日時：毎月第1月曜日 18時30分～20時
(時間内の出入りは自由です)

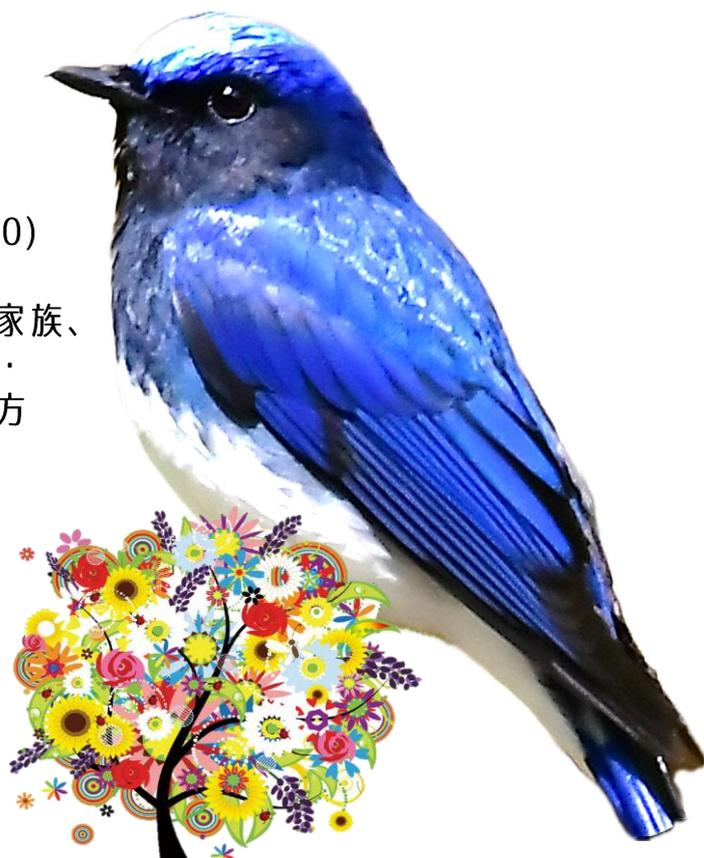
場所：栃の実荘 交流スペース (井口533-20)

対象者：ひきこもりや不登校状態の人、その家族、
支援の中で悩みや不安を抱える教育・
医療福祉関係者、その他関心のある方

参加費：100円(お茶代)

主催：ソーシャルケアワーカー集団
「しもつかれいど」

お問合せ：那須塩原市社会福祉協議会
生活相談係
TEL 0287-37-5122



“ひきこもり” 家族交流会

日時：毎月第2水曜日 10時00分～12時00分
(時間内の出入りは自由です)

場所：健康長寿センター (南郷屋5-163)



『那須塩原市ひきこもり地域支援センターあおぞらテラス』、
『栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センターポラリス☆とちぎ』連携した会です。
本人やご家族が相談できる場、支援に悩みを持つ関係機関の人たちが相談できる場です。

お茶やコーヒーを飲みながら話せる空間です

お気軽におこしく下さい！



LINE 公式アカウント

私たちの活動の基本的な考え方

ひきこもり状態の当事者や不登校の児童生徒が

「問題」なのではありません

認知症の症状を持つ人の行動が周囲にとって「問題」となっても、当事者には「問題」ではないことと同じように、ひきこもり・不登校を「問題」にしているのは周囲の人たちだけです。

むしろ、当事者も「問題」と捉えているのは少なくありませんが、それは周囲の「問題」を映しているだけではないでしょうか。

多くの場合、「相談」をしたい人は周囲の人です

だから、私たちは家族と関係者支援をメインテーマとしています。それぞれの人自分ながらに状態変化の糸口を見つけられるよう、働きかけていきたいと思っています。できれば、私たちはその中から社会の価値観を変容させるキッカケ作りができれば、とも思っています。ひきこもり・不登校当事者の状態は、社会が柔軟さを失っている現状を示していると思っているからです。

自分がいなくなったら、
子どもはどうすれば...

相談を受けても、どこを頼っていいか
わからない

学校に行きたくないのに...
学校って行かなきゃいけないところなの？

- ・ 国の調査によると、15~64歳の生産年齢人口において推計146万人、50人に1人がひきこもり状態であるとされている
- ・ 男性が多いと言われていたが、女性のひきこもりが40~64歳の層では52.3%と半数を超えた
- ・ ひきこもりの理由として、「育児・介護・看護」を挙げる人も多く、介護離職との関係も示唆される
- ・ ひきこもり状態になった年齢が全年齢層に大きく偏りなく分布している

—令和4年度内閣府子ども・若者の意識と生活に関する調査より—

不登校の児童生徒数

全国

小学生 / 137,704人
中学生 / 216,266人
合計 / 353,970人
(12年連続増加)

栃木県

小中学生合計 / 3,129人

全国

高校生 / 67,782人 (前年度: 68,770人)

栃木県

高校生 / 1,033人 (前年度: 891人)

—令和6年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査より—

ソーシャルワーク・ケア集団
しごとがれいど

ボラリス
とちぎ

